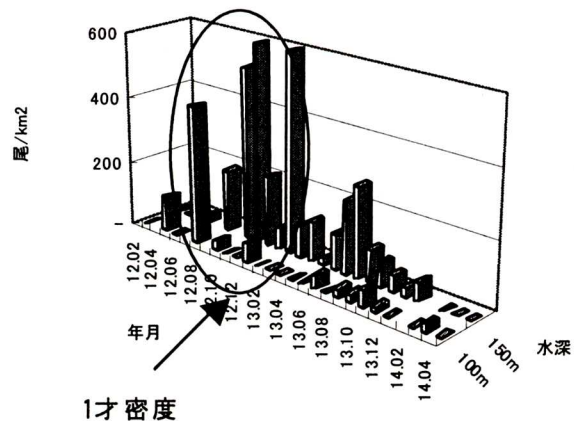
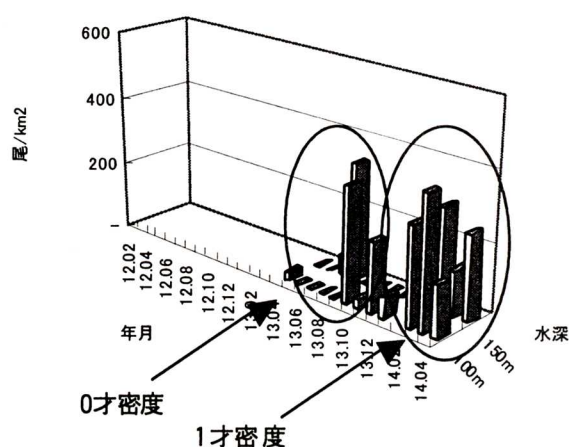


ミギカレイ11年級群分布密度の推移



ミギカレイ13年級群分布密度の推移



ミギカレイ12年級群分布密度の推移

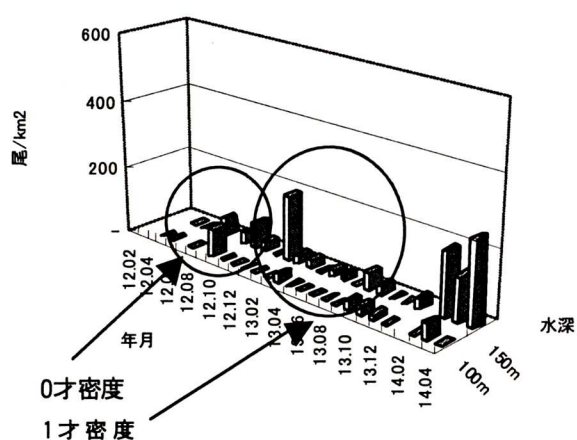


図11 ミギカレイ年級別分布密度

これらの群と比較するのは今後の課題としたい。現段階では平成13年級群の加入水準は平成12年級群のそれを大きく上回るものと推測される。

コ. ケガニ

ア) 採集状況

ケガニは150、200、300m深で採集され、このうち300m深での採集数が多かった。

イ) 採集サイズ (図12)

300m深の採集サンプルの甲長組成を脱皮時期を考慮して3期Ⅰ期：平成12年3月～7月、Ⅱ期：平成12年9月～平成13年7月、Ⅲ期：平成13年9月～平成14年3月)に分けて比較した。雄はⅡ期が甲長80～85mmに、Ⅲ期が85～90mmにモードが見られたが、70、100mm付近にも小さなモードが見られた。雌は3期とも甲長60～65mmにモードが見られた。

300m深では、平成12年3月～平成13年3月までは小型個体(便宜上甲長50mm未満を未成年とする)の採集は非常に少なかったが、平成13年4月に甲長20～25mmの未成年が採集され始めた。甲長モードは、平成13年5～7月が20～25mm、平成13年8～12月が25～30mm、平成14年2月が30～35mm、平成14年3月が35～40mmにそれぞれ見られた。この群は平成12年級群と考えられ、漁獲加入には3年以上を要するものと推測された。